

さるかに合戦

昔むかし、さるとかにが連れ立って歩いている道すがら、
かにが大きなおにぎりを持ち、さるは柿の種を拾いました。さるはうらやましく思っ
て「おにぎりは食べたらしつかりだが、柿の種は大きな木になって、毎年柿の実
が食べられるぞ。」と、かにを言うくため、おにぎりと柿の種を交換しました。

かには家に帰ってそれから毎日毎日水をやりました。

「早く芽を出せ柿の種 出さねばはさみでほじくるぞ」と歌えばむくむく芽が出て、
「早く木になれ柿の芽よ ならねばはさみでちゃん切るぞ」と歌うとぐんぐん伸びて
大きな木になりました。

「早く実がなれ柿の種 ならねばはさみでぶつくるぞ」不思議なことに、柿の木は
たちまち実をいっぱいつけました。

ところがかには、木に登ることができません。かにが困っていると、
さるがやってきました。「もう柿がなつたのか。かにさん、
おれが登ってとつてやるよ。」さるはすると柿の木に登ると、
赤い実をもぎ取り、とても美味しそうに食べてしまいました。
かにが「私にもくださいな」と言うと、さるは「これでも
食つていろ。」とまだ渋くて食べられない青い柿の実をかにに
投げつけました。かには大けがをしてしまいました。

けがで寝込んでしまったかにのお見舞いにきた白と栗とハチはその話をきいて、「それ
はひどい。おれたちが敵をとつてやろう。」と言い、話し合いました。

そしてあくる日、皆で猿の家にしのびこみ、さるを待ち伏せし
ました。山から帰ってきたさるが囲炉裏で火をおこそうとする
と、灰の中で待伏せていた栗が、思い切りさるの顔にばあんと
と体当たりしました。「あつちちち！」猿がやけどしたみたいを冷
やそうと、慌てて水がめにかけよると、今度はそこに待ち構え
ていたハチがぶすり！と刺しました。
「いたい、いたい！こりやたらまん！」

さるが慌てて家から飛び出そうとした時、
屋根から白がさるの上にどすんと落ちま
した。「あいたたた！もう勘弁してくれ！」

さるは「おれが悪かった、許してくれ。」と泣きながら真つ赤な
柿の実を差し出しました。皆はその柿をかにに持って帰り、仲
良く食べました。

＊物語には諸説あるため、こちらで紹介している内容は絶対的なものではありません。